

第1節

まちづくりの主役である

「ひとづくり」

子育て

教育

スポーツ・文化

男女共同参画・平和・人権

(1) 子育て ～子どもの成長を育むまち～

ア 一人ひとりの育ちを大切に環境づくり

施策の概要

子どもたちの健やかな成長、発達を支援する環境づくり、放課後の子どもの居場所づくりに取り組みました。

施策の成果

こども発達支援センターは、保育所・保護者・保健師などとの連携に努め、発達に課題のある子どもたちの早期支援体制の充実を図りました。

また、放課後の居場所づくりを通じて、子どもたちの安全・安心が確保され、地域住民との交流も図られました。

事務事業の実施状況

■ こども発達支援センター運営事業（子育て・女性支援部）

健診などで発達面に心配のある乳幼児を早期に発見し、専門職員による発達相談や親子通所教室での指導が受けられる支援施設として、こども発達支援センター「すまいる」を開設しています。

日常生活への適応などについて、早期の支援を行う療育教室では、楽しい遊びを取り入れ、小集団の中で心身の発達を促すとともに、保護者が子どもへの理解と認識を深め、子育ての不安を軽減できるように支援を行いました。

また、保育の中での発達支援の充実をめざし、専門講師による保育所等巡回相談を行いました。さらに、保育士・保健師などの専門職を対象にした研修会を開催し、児童や保護者への適切な対応などについて理解を深めスキルアップを図りました。

■ 放課後子ども教室事業（教育委員会）

小学校1年生から6年生を対象として、放課後や夏休みなどの学校休業日に、勉強やスポーツ・地域住民との交流活動などを行い、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる場として、放課後子ども教室を開設しています。

市内10ヶ所（河内・粟屋・布野・安田・作木・川地・青河・田幸・川西・君田）で、住民自治組織などへ運営を委託して行い、地域住民が直接子どもたちに関わることで地元で根付いた活動となりました。各教室では、工作教室やスポーツ活動、落語など個性的な学習プログラムも行われ、子どもたちの可能性が広がる取組が行われています。

■ 放課後児童健全育成事業（教育委員会）

保護者が就労などにより昼間留守にする家庭の小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や土曜日、春、夏、冬休みなどの学校休業日に、家庭に代わる生活の場として、遊びを中心とした活動を行う放課後児童クラブの運営を行い、子どもたちの心身ともに健全な育成を図りました。

施設整備では、平成30年5月に三次小学校区放課後児童クラブを改装したほか、平成31年4月に向けて八次第3放課後児童クラブを移転し、受入枠を拡大するなど、安全で安心な放課後の子どもの居場所づくりに努めました。

■ **心と身体を豊かに育む「リズムあそび」推進事業（子育て・女性支援部）**

三次市子どもの未来応援宣言に基づき、子どもたちのチャレンジを応援することを目的にリズムあそびを実施することとし、保育士等への研修会を実施しました。

指導者養成研修は、直営保育所の保育士25人（各保育所1人以上）を対象に年10回実施しました。

全職員研修は、直営のほか、私立（認可外を含む）の保育士等を対象として年3回実施しました。直営保育所では「リズムあそび」を毎週最低1回（30～60分程度）実施しました。この活動を通して、子どもたちの「からだ」、「こころ」、「言葉」の発達を促しています。

■ **第2期子ども・子育て支援事業計画策定業務委託（子育て・女性支援部）**

子ども・子育て支援事業計画が平成31年度までとなっていることから、第2期子ども・子育て支援事業計画を策定するため、平成30年度はアンケート調査を実施しました。このアンケート調査を基に令和元年度に第2期子ども・子育て支援事業計画を策定します。

■ **障害児保育事業補助金（子育て・女性支援部）**

三次市子どもの未来応援宣言の一人ひとりを大事に支援していくという方針に基づき、民間委託保育所・私立保育園に対して、障害児等に対する支援保育士の人件費を助成し、職員体制整備の保障を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

<放課後児童クラブの年間利用児童数>

(単位：人)

放課後児童クラブ名	定員	児童数
三次小学校第1放課後児童クラブ	45	36
三次小学校第2放課後児童クラブ	45	38
十日市第1放課後児童クラブ	80	65
十日市第2放課後児童クラブ	40	34
十日市第3放課後児童クラブ	40	36
十日市第4放課後児童クラブ	40	31
神杉放課後児童クラブ	35	23
酒河第1放課後児童クラブ	40	30
酒河第2放課後児童クラブ	40	23
八次第1放課後児童クラブ	45	39
八次第2放課後児童クラブ	40	38
八次第3放課後児童クラブ	15	18
八次第4放課後児童クラブ	45	40
八次第5放課後児童クラブ	30	27
八次ふれあい放課後児童クラブ	40	38
和田放課後児童クラブ	35	29
吉舎放課後児童クラブ	35	17
三良坂放課後児童クラブ	40	21
三和小学校放課後児童クラブ	35	28
甲奴放課後児童クラブ	40	15
ちゅうおう放課後児童クラブ	55	53
計	860	679

<小規模型放課後児童クラブ事業補助金交付対象クラブ>

1ヶ所(八幡)

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども発達支援センター運営事業	25,388	国県支出金 234	25,154	開設日数 243日 利用延人数 2,949人
放課後子ども教室事業	23,053	国県支出金 8,045	15,008	10ヶ所 加入者 156人
放課後児童健全育成事業	149,469	国県支出金 73,262 その他 28,088	48,119	放課後児童クラブ (公営20ヶ所, 委託1ヶ所) 利用者数 679人 小規模型放課後児童クラブ 事業補助金交付(1ヶ所) 利用者数 11人
心と身体を豊かに育む「リズムあそび」推進事業	1,229	国県支出金 77	1,152	
第2期子ども・子育て支援事業計画策定業務委託	3,002		3,002	ニーズ調査等
障害児保育事業補助金	18,260		18,260	保育所 5所
計	220,401	109,706	110,695	

イ 子育てしやすい家庭環境づくり

施策の概要

平成30年4月に、ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）を開設し、妊娠前から妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援体制の構築に取り組みました。

誰もが安心して産み育てることのできる総合的な子育て支援として、妊娠から出産、子育てにかかる費用について助成し、経済的負担や子育てに対する不安感の軽減に取り組みました。また、多様な子育て・保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てと仕事の両立をめざして、総合的な子育て支援体制の整備に取り組みました。

施策の成果

医療費助成のほか保育利用料などの負担軽減制度や、子どもの年齢に応じた様々な子育て支援策の実施など、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを進めました。

子育てと仕事の両立を支援するために、延長保育や病児・病後児保育、土曜日午後保育を拡充するなど、様々な保育サービスを提供するとともに、保育環境の充実のために保育所の施設改修等を行いました。

また、待機児童の解消や3歳未満児保育の実施など、保育の充実を図るため、田幸保育所の乳児保育室などの整備を行いました。

特定不妊治療・不妊検査・一般不妊治療・不育治療費助成事業を行い不妊治療と不育治療の負担軽減に取り組みました。

また、妊娠から子育てまで切れ目のない相談支援として、「ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）」を中心とした相談支援体制の充実を図り、妊娠・出産・子育てに関する多数の相談支援を行いました。市内関係医療機関や市立三次中央病院とのさらなる連携強化と相談体制の充実を図り、医療機関と保健師等による早期支援に取り組みました。



市立三次中央病院 産婦健康診査の様子



ネウボラサテライト 保健師の巡回相談

事務事業の実施状況

■ こども医療費助成事業（子育て・女性支援部）

18歳までの子どもに対して、一部負担金を1医療機関につき通院500円（月4日まで）、入院500円（月14日まで）とし、補装具、院外処方薬剤は無料とする医療費助成を行いました。子どもの疾病の早期発見及び治療を促し、子どもの健やかな成長と、子育てに係る経済的な負担の軽減につなげました。

■ 妊産婦健康診査助成事業（福祉保健部）

妊産婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦一般健康診査検査券（1回）、妊婦一般健康診査（14回）、子宮頸がん検診（1回）、クラミジア検査（1回）、妊婦歯科健診（1回）、産婦健康診査を1回から2回に拡充し、その費用を助成しました。

産前から産後までのほぼ全ての定期健康診査の助成を行い、妊娠や出産にかかる経済的負担を軽減し、妊産婦の健康管理の充実を図ることにより、妊娠届の早期提出や産後うつ予防のための早期支援につながりました。

■ （新）ネウボラみよし事業（妊娠・出産・子育て相談支援センター）（福祉保健部、子育て・女性支援部）

ネウボラみよしの拠点を市役所東館2階とし、またサテライト2か所（地域子育て支援センター）を設置し、相談支援体制の充実を図りました。妊娠期から子育て期を通して安定した養育環境を確保するため、新たに妊婦全戸訪問、産後ケア事業、産前・産後サポート事業、産前・産後ヘルパー派遣事業などを行いました。

また、地域では、母子保健推進員をはじめ関係機関との協力、連携により地域で子育て家庭を見守る環境づくりに取り組みました。



ネウボラサテライトの様子



産後ヘルパー派遣事業の様子

■ 不妊治療費・不育治療費助成事業等（福祉保健部）

特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）、不育治療費、不妊検査・一般不妊治療に要する費用に対し、県助成額を除いた費用の全額助成を行いました。経済的負担の軽減を図ることにより、安心して治療を受けることができる環境づくりや子どもを産みやすい環境の拡充に努めました。

■ （新）3歳児健康診査視力検査事業（福祉保健部）

3歳児健康診査において、新たに視力検査器を導入し、検査結果により、医療機関への受診勧奨を行い、早期治療につながりました。



3歳児健康診査 視力検査の様子

■ 乳幼児等予防接種費用助成事業（福祉保健部）

1歳から小学校就学前までの幼児を対象に、「おたふくかぜ」の任意の予防接種に要する費用の一部を市独自で助成し、経済的負担の軽減と罹患予防を図りました。

■ 多子世帯保育利用料（保育料）軽減制度（子育て・女性支援部）

保育所・幼稚園・認可外保育所に通う第2子目の保育利用料（保育料）を半額、第3子目以降の保育利用料（保育料）を無料にし、多子世帯の保護者の経済的な負担軽減を図りました。

■ 地域子育て支援センター運営事業（子育て・女性支援部）

公営3ヶ所、民営4ヶ所の地域子育て支援センターを拠点として、子育て相談、遊びの場の提供、子育て講座などを行いました。また、北部地域の交流の場として、布野町で週1回「北部あそびの広場」を開設し、子育てミニイベントや子育てに関する相談などを行いました。

平成30年度から、酒屋地域子育て支援センター「ぽよぽよ」と「あそび工房」を「ネウボラみよし」のサテライトとして位置付け、保健師や栄養士による巡回相談を始め、より専門的な相談支援体制になりました。

また、10月の「ネウボラみよしフェスタ」では、各地域子育て支援センターを紹介する展示や、地域子育て支援センターを体感できるスペース及び、手作りおもちゃのコーナーを設けて周知を図りました。

■ こどもの「遊び」推進事業（子育て・女性支援部）

季節や天候に左右されず、親子が安心して遊べる場所「三次市こどもの室内遊び場（愛称：みよし森のポッケ）」を運営し、親子のふれあいと、木のおもちゃを中心とした木育を推進しました。

また、フィンランドテイストへの模様替え、マルシェ・ファーマーズエリアの拡大などの機能強化を実施し、冬季の利用拡大とリピーターの確保に努めました。



フィンランドテイストのお家



マルシェエリア



ファーマーズエリア

■ みよし運動公園等整備事業（建設部）

みよし運動公園では、憩いの広場内に、平成24年度から平成26年度までの3年計画で大型遊具、水遊び場などを有する「みよしあそびの王国」を整備しました。平成27年度から平成30年度までの4年間でスケートボード等の競技人口の増加の促進や、若者を中心とした交流人口の増加を期待して、ニュースポーツ施設を整備しました。調整池を改修し、中国地方最大規模のスケートパークや、自転車専用のトライアルパーク及び野球の壁投げ等を想定したスポーツウォールの整備が完成し、平成31年4月1日に全面供用開始となりました。

尾道松江線開通による効果も相まって、公園全体では年間約346,000人（みよしあそびの王国では約157,000人）の利用がありました。平成29年度との比較では、公園全体では約13,000人の増加、みよしあそびの王国では約6,000人の増加となっています。

子育て世代の活発な交流をはじめ、ニュースポーツによる新たな魅力創出、広島三次ワイナリーや奥田元宋・小由女美術館、トレッタみよしなどの広域的集客力のある周辺施設との相乗効果により、経済効果、交流人口の増加などが見込まれます。



スポーツウォール



スケートパーク（写真奥）と
トライアルパーク（写真手前）

■（新）みよし運動公園周辺整備事業（東酒屋南駐車場等）（建設部）

みよし運動公園及び東酒屋地区周辺施設の駐車場不足に対応するため、「みよし 森のポッケ」の南側に新たに113台収容できる駐車場の整備をすすめています。今年度は駐車場整備の設計を行いました。

■ 保育の充実（子育て・女性支援部）

保護者の就労や疾病などにより保育を必要とする児童に対し、多様な保育ニーズに対応した保育を行いました。養護と教育が一体となった保育を進め、健康で豊かな人間性を持った子どもの育成に努めました。

平成30年度から吉舎保育所・神杉保育所の土曜日午後保育を開始し、土曜日に就労などやむを得ない事情で保育が必要な家庭の支援体制を整えました。

また、安心して預けられる保育所とするため、神杉保育所の駐車場整備や十日市保育所・田幸保育所の改修等事業を行いました。その他、施設の衛生面や利便性の向上のための環境改善などに取り組みました。

■ 第2期三次市立保育所規模適正化基本方針及び第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（前期）の策定（子育て・女性支援部）

平成30年度から令和5年度までを期間とする基本方針を策定し、その基本方針の規模適正化基準に基づき令和2年度までの具体的な推進計画を策定しました。子どもの発達過程において、3歳以上の保育については集団保育が望まれますが、一部地域においては入所児童数が著しく減少し、年齢別の集団保育が実施できない状況にあるため、第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（前期）に基づき、八幡保育所の保護者や住民と協議を行いました。統合にあたっては、今後も保護者や地域と協議を重ね、不安の払しょくに努めます。

■ 病児・病後児保育事業（子育て・女性支援部）

病児・病後児保育室「すくすく」を市立三次中央病院内に、病後児保育室「おひさま」を酒屋保育所内にそれぞれ開設し、病気の回復期に至らない時期からの児童の看護及び保育を行い、保護者の子育てと仕事の両立に向けて支援しました。

■（新）風しん抗体検査費用助成事業（福祉保健部）

先天性風しん症候群の予防を図るため、妊娠を希望する女性及びその同居家族等に対して、風しん抗体検査の費用を助成し、風しん予防接種費用助成の利用を促進しました。

■ 風しん予防接種（任意）費用助成事業（福祉保健部）

先天性風しん症候群の予防を図るため、風しん抗体価が十分でないと確認できた産婦及び妊娠を希望する女性、妊婦と同居する家族に対し、風しん予防接種費用を助成しました。

■ 学びの支援活動推進事業（教育委員会）

子どもたちの基礎学力の定着・向上を支援するため、学習指導に取り組んだNPO法人に対し補助金を交付し、子どもの学びの支援を行いました。

■ ひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業（子育て・女性支援部）

経済的に支援を必要とするひとり親家庭などの学び・仕事・住まい・生活を応援するため、「ひとり親家庭等入学支度金支給事業」【学び】、「ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業」【仕事】、「ひとり親家庭等家賃補助事業」【住まい】、「ひとり親家庭等スポーツ観戦・文化鑑賞事業」【生活】を行い、ひとり親家庭などの自立を支援しました。

■ 女性活躍支援課相談室事業（子育て・女性支援部）

家庭児童相談員、婦人相談員、母子・父子自立支援員を配置し、DV（ドメスティック・バイオレンス）など女性の困りごと、子育ての悩み、ひとり親家庭の支援に関することなど、どこに相談したらよいかわからない相談などに対し、専門の相談員が応じ、庁内及び関係機関と連携を図りながら、問題解決に向けたサポートを行いました。

また、平成30年度からの「ネウボラみよし」に位置づくことで、児童虐待、DVの早期発見、早期対応による防止の強化を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども医療費助成事業	143,671	国県支出金 26,528	117,143	対象者 7,610 人
妊産婦健康診査助成事業	34,284	国県支出金 1,912	32,372	受診実人数 347 人 妊婦健診受診延人数 5,207 人 産婦健診受診件数 487 件
妊婦歯科健康診査事業	496		496	受診実人数 144 人
ネウボラみよし事業(妊娠・出産・子育て相談支援センター)	8,288	国県支出金 4,588	3,700	相談等件数総数 12,070 件 (主な事業内訳) 妊婦訪問 273 件 産後ケア事業(母乳育児相談助成事業)利用人数 104 件 産後ケア事業(デイ・宿泊型)利用件数 2 件 産前・産後サポート事業(母子保健推進員乳児訪問)件数 33 件 産前・産後ヘルパー派遣事業利用件数 7 件(11 件申請)
不妊治療費助成事業, 不育治療費助成事業, 不妊検査・一般不妊治療費助成事業	19,239		19,239	不妊治療申請延件数 53 件 不妊検査・一般不妊治療申請延件数 54 件 不育治療申請件数 3 件 妊娠届出件数 26 件
3歳児健康診査視力検査事業	1,285		1,285	視力検査機器導入 3歳児健診視力検査実施者数 386 人
乳幼児等予防接種費用助成事業	2,376		2,376	おたふくかぜ 396 件
多子世帯保育利用料軽減制度	133,227		133,227	対象者 519 人
多子世帯保育料軽減補助金	17,673		17,673	対象施設 7 施設 (幼稚園 3, 認可外保育所 4) 対象者 135 人

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
地域子育て支援センター運営事業	46,577	国県支出金 31,050	15,527	年間延利用者数(親子総数) (公営)酒屋地域子育て支援センター 3,692人 (公営)三良坂地域子育て支援センター 2,521人 (公営)あそび工房 7,699人 (民営)みゆき保育園地域子育て支援センター 835人 (民営)ちゅうおう憩いの森地域子育て支援センター 1,727人 (民営)子育てフリースペースKADOYA 763人 (民営)あいあいキッズ三次 7,926人
こどもの「遊び」推進事業	27,113	その他 7,769	19,344	利用者数 40,002人
みよし運動公園等整備事業(スポーツウォール)	44,230	国県支出金 17,000 起債 27,000	230	入園者数 346,000人
みよし運動公園周辺整備事業	9,157	起債 9,100	57	駐車場整備の設計
保育の充実	1,934,720	国県支出金 289,920 その他 244,892	1,399,908	定員 1,966人 (公立1,686人,私立280人) 月平均児童数 1,461人 (公立1,156人,私立305人)
神杉保育所整備事業	26,270	起債 26,000	270	設計,解体工事,駐車場整備工事等
保育所改修等事業(十日市保育所)	9,807	起債 9,800	7	園庭整備工事,総合遊具購入
保育所改修等事業(田幸保育所)	8,082	起債 6,400	1,682	設計監理,改修工事,備品購入等
病児・病後児保育事業	8,884	国県支出金 5,752 その他 252	2,880	病児・病後児保育室すくすく 開設日数 245日 延べ利用者数 142人 病後児保育室おひさま 開設日数 292日 延べ利用者数 37人
風しん抗体検査費用助成事業	46		46	申請件数 8件

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
風しん予防接種 費用助成事業	147		147	申請件数 35 件
学びの支援活動 推進事業	860		860	補助件数 1 件
ひとり親家庭等 入学支度金支給 事業	2,230		2,230	高等学校等 54 人 大学等 23 人
ひとり親家庭等 高等職業訓練促 進費給付事業	4,994	国県支出金 2,755	2,239	給付件数 4 件
ひとり親家庭等 家賃補助事業	6,386		6,386	補助人数 81 人
ひとり親家庭等 スポーツ観戦・文 化鑑賞事業	405	その他 405		カーブ応援隊バスツアー 16世帯43人 サンフレッチェ広島応援隊 バスツアー 5世帯14人 JT サンダース応援隊バスツ アー 1世帯4人 劇団四季「魔法をすてたマジ ョリン」 16世帯41人
女性活躍支援課 相談室事業	10,878	国県支出金 3,907	6,971	婦人相談件数 226 件 (実人数 57 人) (うち DV 相談 114 件 実人数 23 人) 児童家庭相談 527 件 (実人数 174 人) 母子・父子自立支援相談 264 件 (実人数 213 人)
計	2,501,325	715,030	1,786,295	

ウ 子育てを地域で支える環境づくり

施策の概要

市全体の子育て力の向上をめざし、子育てを地域全体で支援するという意識の醸成を図り、地域で子育てを支える環境づくりに向けて、事業を行いました。

施策の成果

地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりに努め、子育て中の親や地域の子育て力の向上を図ることができました。引き続き、子どもたちと地域とのつながりを深める取組を推進します。

事務事業の実施状況

■ 子育てサポート事業（子育て・女性支援部）

子育て中の保護者の負担軽減を図るため、子育てを支援してほしい「おねがい会員」と子育てを支援したい「まかせて会員」による相互支援活動を市が仲介し、地域ぐるみでの子育てネットワークを支援しました。

まかせて会員を増やし確実な支援を行うための講習会や、会員間の信頼関係を深め、相互支援活動の質の向上を図るための交流会を合わせて4回開催しました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子育てサポート事業	4,341	国県支出金 1,714	2,627	活動件数 1,297 件 活動時間数 3,844 時間 会員数 951 人 (うち まかせて会員 197 人, おねがい会員 651 人, 両方会員 103 人)
計	4,341	1,714	2,627	

(2) 教育 ～ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち～

ア ふるさと三才を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進

施策の概要

市費教員や学校支援員の配置により、個に応じた学習指導や支援、ALT（外国語指導助手）を活用した実践的なコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

施策の成果

少人数指導によるきめ細かい指導により、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られてきており、生徒指導上の課題も減少傾向にあります。

事務事業の実施状況

■ 特別支援教育推進事業（教育委員会）

三次市こども応援センター教育相談員による就学相談や、県・市などの関係機関との連携により、適正な就学指導の支援体制の構築を図りました。また、就学指導委員会を計画的に開催し、幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じた就学の実現に取り組みました。

各小中学校において、障害のある児童生徒の教育的ニーズを把握し、ニーズに応じた適切な指導及び支援が図られるよう、特別支援教育の専門家を派遣し、特別支援に関する指導を行う特別支援教育巡回相談を行いました。

さらに、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性の更なる向上を図るために、特別支援教育の授業研究や特別支援学校の公開研究会参加などを研修内容とした特別支援教育研修会を開催し、個に応じた指導の充実を図りました。

■ 学校支援員（教員）配置事業（教育委員会）

校長が必要とする教育活動の補助を目的として学校支援員（教員）を配置し、学校における教育活動を充実させ、児童生徒の支援に努めました。

20校に27人の学校支援員を配置しました。具体的には、通常の学級に在籍し、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより、生活及び学習上の困難を有する児童生徒に対し、学習活動における指導の援助及び学校生活を営む上での援助を行いました。また、いじめ、不登校、暴力行為、授業妨害など課題のある児童生徒が在籍する学級に対する支援、放課後や長期休業中の学習支援、担任をはじめ教員の教務事務補助などを行い、学校での教育活動の充実を図りました。

■ 小中学校外国語教育推進事業（教育委員会）

異文化を理解し尊重する態度の育成や英語によるコミュニケーション能力の更なる向上をめざし、ALT12人を小中学校に配置し、小学校の1年生以上の児童生徒を対象として、英語活動を行いました。

また、小学校外国語活動と中学校外国語科を円滑に接続した外国語教育の充実を図るため、中学校の外国語科担当者及び小学校外国語活動担当者を対象に、授業改善に向けた研修を行いました。

■ 【子ども夢・未来塾】イングリッシュキャンプ（教育委員会）

英語に興味をもち、グローバルな視点をもって主体的に他者とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をめざし、小学校5年生から中学3年生を対象とし、ALTと様々な体験活動を楽しむことができる「イングリッシュキャンプ」を行いました。中学生は7月、小学生は12月に行い、合計72人の子どもたちが参加し、意欲的に英語でコミュニケーションを図りました。

■ 【子ども夢・未来塾】子どもの体力充実事業（教育委員会）

正しい走り方についての指導を通して、子どもたちに体力の向上とこれからの社会をたくましく生き抜く力を育成することを目的に「子どもの体力充実事業（走力アップ教室）」を行いました。平成30年11月27日に、みよし運動公園陸上競技場において、エディオンアシスタントコーチの松尾紗也可さん、中村有希選手を招き、走力アップ教室を開催し、市内小学生79人が参加しました。トップ選手を指導されている方からの直接指導を通して、児童に「走る」運動への動機づけを図るとともに、夢を実現していくことの大切さについて考えさせることができました。

■ がんばる中学生の英語学習応援事業（教育委員会）

実用英語技能検定（英検）の受検機会の拡大による小中学生の英語力や学習意欲の向上を図ることを目的に、英語検定料の全額補助を行いました。補助対象は、三次市立小中学校に在籍する児童生徒の保護者で、小学校については5級以上、中学生については4級以上の検定料を全額補助しました。さらに、年度内に上位の級を受検する児童生徒に限り、複数回の補助を行いました。この事業を活用して、638人の児童生徒が英検にチャレンジしました。

■ 学力ぐんぐん事業（教育委員会）

児童生徒の学力向上を目的として、小学校においては少人数学級編制や少人数授業、中学校においては少人数習熟度別授業などを行い、指導方法の工夫改善ときめ細やかな指導を進めました。

小学校では8人、理科支援教員3人、小学校外国語指導員1人、中学校では数学科5人（うち講師1人）、外国語科6人（うち講師2人）の計23人の教員を市費により任用し、配置しました。

各種学力調査において、基礎的・基本的な内容の定着が、概ね図られています。

■ 学力到達度検査事業（教育委員会）

学校における課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、市独自に全小中学校で学力到達度検査を行いました。小学校1・2年生では国語・算数、小学校3年生から小学校6年生までは国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語について行いました。検査実施後には、各学校で結果を分析し、個々の児童生徒の課題に対して、当該学年の中で確実に解決を図るよう補充指導などを行いました。

また、4月に小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査が行われました。調査実施後には、授業改善や個々の児童生徒に応じた具体的な指導のあり方について各学校で分析・協議し、学力向上につながる指導方法の改善に取り組みました。

■ みよし版わくわく体験活動推進事業（教育委員会）

児童の豊かな心の育成を図ることを目的とし、三次市内の小学生（5年生）が、日常と異なる環境での生活（集団生活）を体験したり、自分たちが生活している三次において、地域の自然・文化・歴史に触れ、地域の方々と交流したりすることを通して、児童の自立心や主体性を育てるとともにふるさと三次のよさを実感させる取組を行っています。

三次市教育大綱にある「ふるさと三次が子どもを育て、子どもがふるさとを愛し、誇りに思い、夢を実現する『地域とともにある学校』づくり」を具現化する取組の一つで、原則3泊4日の長期宿泊体験を実施することとしています。

児童意識調査「三次市には、じまんでできることや所がたくさんあると思う。」の設問に対し、93.1%（実施前）→95.0%（実施後）と肯定的に答える児童の割合は増加しています。

■ （新）学校 ICT 整備事業（教育委員会）

令和2年度から順次全面実施される新学習指導要領においては、小学校段階でプログラミング教育が導入されるなど、学習活動において、より積極的に ICT を活用することが求められています。

三次市では、新学習指導要領において求められる学習活動を全ての学校において実現できるよう、平成30年度から新たに学校 ICT 整備事業に取り組み、計画的に整備を進めています。初年度である平成30年度は、全小中学校に各階1台以上となるよう電子黒板の整備を行いました。

また、特別支援学級にマルチタッチディスプレイ（小型の電子黒板）を設置し、個々の実態に応じた指導に取り組みました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
特別支援教育推進事業	36,174		36,174	特別支援教育研修会参加者数 80人 生活介助が必要な児童生徒数 55人
学校支援員(教員)配置事業	45,812		45,812	学校支援員数 27人
小中学校外国語教育推進事業	57,672		57,672	・三次市学力到達度検査での英語の平均正答率が全国平均正答率比 +5.9ポイント(中1) +4.1ポイント(中2) ・小学校1~4年生の英語活動の実施率 100%
「子ども夢・未来塾」イングリッシュキャンプ・子どもの体力充実事業	1,231		1,231	【イングリッシュキャンプ】 ・参加者 小学校26人 中学校46人 ・参加者満足度 小学校 平均100% 中学校 平均98% 【子どもの体力充実事業】 ・参加者 小学校5年生48人 小学校6年生31人 計79人 ・参加学校数 小学校2校 ・走力アップ教室に参加しタイムが向上した児童の割合 93%
がんばる中学生の英語学習応援事業【英語検定料補助】	1,889		1,889	補助人数 638人
学力ぐんぐん事業	78,149	起債 69,600	8,549	三次市学力到達度検査における市平均正答率が全国平均正答率比+4.6ポイント
学力到達度検査事業	9,078	起債 8,600	478	三次市学力到達度検査における市平均正答率が全国平均正答率比+4.6ポイント
みよし版わくわく体験活動推進事業	3,897		3,897	長期集団宿泊活動を行う学校数100%
学校ICT整備事業	29,548	起債 27,700	1,848	電子黒板48台 マルチタッチディスプレイ50台 アクセスポイント更新200台
計	263,450	105,900	157,550	

イ 学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化

施策の概要

学校・家庭・地域が協働して地域の将来を担う子どもたちを大切に育てる小中一貫教育を推進しました。また、子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、地域に誇りと愛着を持ちつつ、グローバル化する世界で活躍できる人材を育成しています。

さらに、学校・家庭・地域をつなぐパイプ役を担う社会教育委員が平成27年度に作成した「三次の子育て5か条」のリーフレットの配布やポスターの掲示、平成29年度からは「わが家の1か条」の募集を始め、家庭の教育力の向上を図る啓発活動を行いました。

施策の成果

みよし教育フェスタを開催し、中学校区での取組の発信や「わが家の1か条」の表彰のほか、学校・家庭・地域が力を合わせて子どもを育てる教育の在り方について、幅広い世代の参加者とともに考えました。

事務事業の実施状況

■ みよし教育フェスタ（教育委員会）

平成31年1月27日、第5回みよし教育フェスタを三次市民ホールきりりで開催しました。

「夢人」をテーマに、社会教育委員会議による「三次の子育て5か条『わが家の1か条』」の表彰、小・中・高校生の学習発表、三次市在住や出身の方のパネルディスカッションを通して、学校・家庭・地域が力を合わせて取り組む「みよしの教育」について考えました。

■ 社会教育委員の活動（教育委員会）

平成27年度に作成した「三次の子育て5か条」のリーフレット配布を、小学校新1年生を対象に行いました。また、活用状況などの聞き取り調査を市内小中学校で行うとともに、「三次の子育て5か条」の継続的な活用促進策として昨年同様、「わが家の1か条」の募集を行い、893件の応募がありました。また、他団体との交流研修により「子育て教育と家庭支援のあり方」について講演会と意見交換を行いました。

■ 家庭教育の充実（教育委員会）

地域での家庭教育の充実を図るため、学校・子育て支援センターなどで出前講座などの機会を通じて「親の力」をまなび合う学習プログラムを活用し、親の役割、地域の役割についてグループ学習を行いました。計23回行い、延べ252人が参加しました。



図書館での「親プロ」講座
おひざにだっこでお話しましょ

■ 青少年育成講演会（教育委員会）

「生きる力」を育み、主体的に役割を果たすことのできる青少年を育成するため、市内中学生とその保護者を対象に青少年育成講演会「性と生を考える」を開催しました。講演会では、体と性についての正しい知識と、お互いを思いやりコミュニケーションをとることが、自分の命・体を守ることに繋がるということを学びました。



「性と生を考える」講演会 布野中学校

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
みよし教育フェスタ	500		500	参加者 約400人
青少年育成講演会	60		60	中学生とその保護者を対象に講演会を実施 153人
計	560		560	

ウ 活力と信頼の学校づくり

施策の概要

子どもたちが安全・安心に学校で学び、生活するために、生徒指導体制の確立と教育相談の一層の充実を図り、不登校対策や問題行動に迅速、適切に対応しています。

また、学校施設整備事業に取り組み、ソフト面・ハード面ともに、より良い教育環境の整備に努め、保護者、地域から信頼される学校運営を行いました。

施策の成果

子どもたちの教育環境の整備などを図るため、学校施設整備事業、スクール便運行事業及び児童生徒安全確保緊急メール事業を行いました。

不登校傾向の児童生徒やいじめなどの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、不登校の解消やいじめ問題の解決に取り組みました。特に、小学校と中学校が連携を密にしたことで、中学校入学時に学校復帰できた生徒や、進路指導に取り組んだことで、進路希望をかなえることができた生徒もいました。

特色ある学校づくり創造事業を行い、それぞれの学校で創意工夫ある教育活動を推進することができました。

学校・家庭・地域が協働して小中一貫教育を推進し、中学校区全体で開かれた学校づくりを進め、児童生徒の自己肯定感の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図りました。

事務事業の実施状況

■ 学校施設整備事業（教育委員会）

大規模改修として、八次小学校下水道接続工事、吉舎小学校屋上防水工事、布野小学校屋上防水工事を行いました。

さらに、学校施設の整備工事として、八次小学校及び酒河小学校給食用リフト改修工事、君田小学校特別支援教室整備工事をはじめ、多数の施設整備を行いました。

これらにより、各学校の学習環境の整備を図ることができました。

■ スクール便運行事業（教育委員会）

学校統廃合に伴う遠距離通学の児童生徒（一部保育所含む。）に対して、バス・タクシーを含め24路線のスクール便を運行しました。

■ 児童生徒安全確保緊急メール事業（教育委員会）

三次市内の児童生徒の保護者に対し、不審者や災害などの発生情報を、電子メールを利用した一斉配信で速やかに伝達することにより、児童生徒の安全確保を図ることを目的に緊急メール事業を引き続き行いました。この事業において情報を伝達するのは、①不審者の発生により、児童生徒への被害のおそれがある場合、②天災（台風、暴風、洪水、大雨、大雪、地震など）による被害のおそれがある場合等です。

■ いじめ防止・不登校対策推進事業（教育委員会）

不登校傾向にある子どもの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、家庭訪問やカウンセリングに取り組みました。さらには、小中一貫教育の視点から、教職員を対象に、いじめの未然防止や不登校解消に向けた研修会を開催し、中1ギャップの解消、不登校の未然防止などに取り組みました。

また、三次市こども応援センターや適応指導教室においては、教育相談員や青少年指導相談員を中心に相談体制の充実を図り、各学校においては、いじめを許さない風土づくり、早期発見、早期対応に努めました。

■ 特色ある学校づくり創造事業（教育委員会）

「活力と信頼のある学校づくり」の実現をめざして各学校が独自に創意工夫したオンリーワンの特色ある学校づくりを推進するため、学校独自の豊かな教育内容の創造及び教育活動を支援しました。

地域や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の実践研究を進めるとともに、広く教育研究を発信しました。

また、「みよし教育ビジョン」を踏まえて策定した「三次市小中一貫教育基本構想『学びの風土づくりプラン』」に基づき、中学校区の小中学校が、めざす目標を共有する中で協働し、継続性・発展性をもって、児童生徒の育成を図る取組を進めました。

キャリア教育を軸とした、共通の教育課程「コアカリキュラム」と、各中学校区の特色を活かした「オリジナルカリキュラム」を、全ての中学校区で行い、児童生徒の成長につながる取組を進めました。



小中合同読書集会（君田中学校区）



そば打ち体験（作木小学校）

■ 三良坂学校給食共同調理場統廃合事業（教育委員会）

平成30年8月から、三良坂学校給食共同調理場を、吉舎学校給食共同調理場に統合しました。このことにより、市内全ての小・中学校において、完全給食の実施が可能となりました。

■ 学校給食調理場整備事業（教育委員会）

平成30年11月から、市内全ての小・中学校及びデリバリー給食を実施している中学校区の小・中学校を対象とした「三次市学校給食調理場再編基本計画（案）」保護者説明会を計6回開催しました。約3,500人の対象者のうち、延べ105人の参加があり、さまざまな意見をいただきました。

■ 学校規模適正化事業（教育委員会）

「三次市立小・中学校の規模及び配置の適正化」に係る基本方針に基づき、保護者や地域住民の方との十分な議論と共通の理解のもと、安田小学校を吉舎小学校に統合することとし、安田小学校は閉校しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
学校施設整備事業 《下段：繰越明許分》	67,724	起債 29,100	38,624	吉舎小学校屋上防水工事 八次小学校下水道接続工事 八次小学校及び酒河小学校給食用 リフト改修工事、君田小学校特別 支援教室整備工事ほか
	15,762	起債 15,700	62	布野小学校屋上防水工事
スクール便運行事業	111,869	国県支出金 2,583	109,286	路線数 24 路線 利用者数 295 人
児童生徒安全確保 緊急メール事業	598		598	保護者の加入状況 105.1%
いじめ防止・不登校 対策推進事業	17,451		17,451	「学校は楽しい」と、肯定的に答 えている児童生徒の割合 85%以上 (平成 30 年度 88.5%)
特色ある学校づく り創造事業	9,009		9,009	三次市学力到達度検査における市 平均正答率が全国平均正答率比 +4.6ポイント
三良坂学校給食調 理場統廃合事業	4,182		4,182	完全給食実施校 34 校中 34 校 (100%)
学校規模適正化事 業	500		500	平成 30 年度 小学校 22 校、中学 校 12 校 安田小学校の閉校により、平成 31 年度(令和元年度) 小学校 21 校、 中学校 12 校
計	227,095	47,383	179,712	

(3) スポーツ・文化 ～学びたい気持ちを応援するまち～

ア “スポーツのまちみよし” の実現

施策の概要

「いきいき健康日本一のまち」の取組と連動した、市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくり、スポーツ施設を活用した合宿や大会の誘致、また、指導者の育成を行う中で、競技力向上や交流人口の増加をめざしました。

施策の成果

チャレンジデーを通して、住民自治組織、学校、企業や、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、スポーツを通じた一体感の醸成と、ライフステージに応じたスポーツの実施、スポーツによる健康づくりといった意識の向上という効果が得られました。また、スポーツ推進委員による自主事業や研修も実施されるなど、指導者の資質向上をめざした取組も展開されました。大会やイベントも継続して開催され、市民のスポーツへの関心度や活力向上が得られました。スポーツ合宿の誘致についても、積極的な誘致活動により利用者数が増加しました。さらには、「三次市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツ分野における施策を体系化し、具体的に示しました。

事務事業の実施状況

■ チャレンジデー2018 事業（地域振興部）

住民自治組織、企業、団体、各学校などと連携して、市民総参加型の事業として取り組みました。参加率は前年度を大きく上回る71.0%となり、4年ぶりに対戦相手に勝利しました。

住民自治組織や三次工業団地自治会など様々な団体に向向いの積極的なPRと参加依頼の強化に加え、当日は大型商業施設での「お買い物ウォーキング」や、各団体等において積極的な取組が行われました。

また、甲奴健康づくりセンター「ゆげんき」や広島県立みよし公園では、北京オリンピックに出場したトップスイマーである長崎宏子さんを講師としてお招きして親子スイミング教室や水中ウォーキング教室等を開催し、オリンピックから直接指導を受けました。



お買い物ウォーキング（みんなで野菜体操）



トップスイマー長崎宏子さんが指導
「はじめての水中ウォーキング」

■ 三次市スポーツ推進委員協議会自主事業（地域振興部）

三次市スポーツ推進委員としての資質向上を目的に、「事業部会」、「広報部会」、「研修部会」の3つの専門部を組織し、市民を対象とした「ウォークラリー」の開催や「ユニカール研修」等を実施したほか、委員の活動PRとして会報誌を発行しました。



ウォークラリー

■ 各種スポーツ大会の開催（地域振興部）

江の川親水マラソンや三次駅伝競走大会をはじめ、三次市体育協会やスポーツ少年団、市内各地域が行う市民の体力づくりの取組や市民が進んで参加できる多種多様なスポーツ大会を支援しました。このことにより、参加機会の拡大と市民スポーツ活動の振興につなげることができました。

京都で行われる全国大会への出場をかけた広島県高等学校駅伝競走大会では、男子の部 51 チーム、女子の部 29 チーム（男女あわせて約 500 人）が、みよし運動公園付設駅伝コースを疾走しました。

大会に向けた市民の皆さんの協力によるコースの整備や当日の沿道での声援など、秋の三次の一大イベントとして盛り上がりました。

区 分	内 容	参加者数
スポーツ大会	名称 第 30 回江の川親水マラソン 月日 平成 30 年 4 月 8 日	460 人
	名称 第 65 回三次駅伝競走大会 月日 平成 30 年 10 月 21 日	男子：36 チーム 女子：15 チーム 参加者：383 人
	名称 男子 69 回・女子 35 回 広島県高等学校駅伝競走大会 月日 平成 30 年 11 月 4 日	男子：51 チーム 女子：29 チーム
	名称 県民体育大会出場	182 人
スポーツイベント	名称 三次市チャレンジデー2018 月日 平成 30 年 5 月 30 日	37,735 人 参加率 71.0%
スポーツ・文化芸術報償	名称 世界大会・全国大会出場	世界大会 2 人 全国大会 85 人 全国大会 5 団体

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市チャレンジデー2018	300		300	37,735人 参加率 71.0%
第30回江の川親水マラソン	300		300	460人
第65回三次駅伝競走大会	1,000		1,000	男子：36チーム 女子：15チーム 参加者：383人
男子69回・女子35回広島県高等学校駅伝競走大会	2,400		2,400	男子：51チーム 女子：29チーム
スポーツ審判員等育成支援	18		18	講習会 46人 資格取得支援 1団体
県民体育大会出場	255		255	182人
世界大会・全国大会出場	1,410		1,410	世界大会 2人 全国大会 85人 全国大会 5団体
計	5,683		5,683	

■ 三次市スポーツ推進計画の策定（地域振興部）

平成29年度から平成30年度にかけて、策定作業を行い、平成31年3月に、三次市スポーツ推進審議会会長からの答申を経て、三次市スポーツ推進計画を策定しました。計画期間は5年間とし、「みる」、「する」、「ささえる」のトリプルで「スポーツのまちみよし」の実現をめざします。

■ 市営プール改修事業（地域振興部）

作木水泳プールの水槽塗装の剥離が著しく、漏水や不衛生で利用者の健康面への影響も危惧されるため、プールシートの張替えを行い、快適で安全に利用できる環境を確保しました。

また、十日市水泳プールは市内唯一の公認50mプールですが、特に外周フェンスは痛みが著しく、集中して練習できる環境とはいえない状況であることから、全面的に改修を行い、利用者のプライバシー確保と、安全性を確保しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
作木水泳プール改修工事	15,697	起債 15,600	97	小プール及び大プール防水シート改修等
十日市水泳プール大規模改修工事	20,552	起債 20,500	52	フェンス改修等
計	36,249	36,100	149	

イ スポーツを通じて子どもの夢を応援！

施策の概要

プロスポーツの試合の観戦やプロ選手を招いてのスポーツ教室の開催など、あこがれのトップアスリートと身近に接し、指導を受けることで、技術の向上だけでなく、スポーツに対する関心を高め、夢をもって前向きに進んでいく子どもを育てます。

施策の成果

プロ選手によるスポーツ教室では、技術指導だけでなく、トップアスリートと身近に接することで、スポーツに対する意識がより高揚しました。また、プロスポーツ観戦ツアーでは、ハイレベルの技術を目の当たりにする中で、子どもたちは感動を覚え、自分の夢を育むきっかけとなりました。

事務事業の実施状況

■ 「トップアスリートによるスポーツ教室」の開催支援（地域振興部）

広島東洋カープやJTサンダース、広島ドラゴンフライズの選手・コーチによるスポーツ教室のほか、アンジュヴィオレ広島のコーチによる年間を通しての女子サッカースクールの開催を支援し、子どもたちがより高度な技術を修得できる機会を設けました。スポーツ少年団や中学生の子どもたちがトップアスリートから指導を受け、競技力の向上と意識の高揚が図られました。



トップアスリートによるスポーツ教室

■ 2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致事業（地域振興部）

<事前合宿>

平成30年8月21日～9月11日の期間でメキシコ陸上選手団29人を受け入れ、強化合宿に対する支援を実施しました。合宿期間中には、鶺鴒、神楽など文化・芸術の鑑賞のほか、市内小中学校の学校訪問、折り紙、フォークダンスなどの交流を実施し、子どもたちをはじめとする市民と選手団の交流の機会を提供しました。

また、同年10月、メキシコオリンピック委員会及びメキシコ野球連盟の視察を受け入れ、メキシコ野球選手団の合宿実施に関する基本的な内容について合意確認書を交わしました。



メキシコ陸上選手団



学校訪問・交流（青河小学校）



メキシコ野球連盟の視察受入

＜機運醸成の取組＞

広島県 JICA の協力により、平成 30 年 8 月 21 日～9 月 17 日の期間で、市内商業施設内においてメキシコ陸上選手団事前合宿受入記念「メキシコ展」を開催し、メキシコの文化や暮らしを紹介する写真や民族衣装などを紹介しました。また、オリンピック・パラリンピックフラッグツアーの巡回展示を、平成 30 年 10 月 14 日に、宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」にあわせて開催し、オリンピック・パラリンピックフラッグや大会関連パネルの設置、PR ビデオの上映を実施しました。



メキシコ展



東京 2020 オリンピック・パラリンピック
フラッグツアー（展示）

＜パラリンピックへの取組＞

2020 年東京パラリンピックへの出場をめざす選手への支援と人材活用を通して、障害者スポーツの理解と普及を進めていくことを目的に、白砂匠庸選手（陸上競技）による陸上教室を、市内小学校（3 校、4 回、計 111 名参加）で実施しました。また、2 大会連続出場をめざす川本翔大選手（自転車競技）の活躍を広報みよしで紹介しました。



陸上教室（小童小学校）

■ 聖火リレーコース誘致への取組（総務企画部）

東京 2020 オリンピック聖火リレーコースの誘致に向け、本市出身で 1964 年の東京オリンピック最終聖火ランナーを務められた坂井義則氏の軌跡をたどる回顧展を開催しました。平成 30 年 8 月 10 日から 9 月 2 日までは市内の商業施設において、平成 30 年 9 月 5 日から 9 月 28 日までは市役所 1 階ロビーにおいて、計 2 回にわたり、当時の写真をもとにしたパネル展示や、前回大会の聖火トーチなどを展示し、市内外の多くの方にオリンピックレガシーに触れていただき、聖火リレーコースの誘致に向けた機運醸成に取り組みました。



商業施設での回顧展の様子



当時の聖火トーチを手にする市民

■ 「三次市民プロスポーツ応援事業」の開催支援（地域振興部）

市民を対象とした、サンフレッチェ広島及び JT サンダーズの応援隊バスツアーを行いました。サンフレッチェ広島への応援 111 人、JTサンダーズへの応援 72 人が、エディオンスタジアム広島及び広島県立総合体育館へ応援隊として参加しました。多くの子どもたちが参加し、トップアスリートの華麗な技に触れ、スポーツに対する夢を膨らませました。

また、みよし運動公園陸上競技場において、女子サッカーリーグ公式戦を開催し、736 人のアンジュヴィオレ広島応援隊が観戦に訪れました。



女子サッカー公式戦開催
(みよし運動公園陸上競技場)



三次市民サンフレッチェ広島応援隊
(エディオンスタジアム広島)

■ 「宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール」の開催（地域振興部）

三次きんさいスタジアムにおいてドリーム・ベースボールを開催し、元プロ野球選手による野球教室や講演会、ドリームチームと三次市選抜チームによるドリームゲーム等を実施しました。野球教室には小中学生 424 人、講演会には 463 人の参加者があり、観客動員数は 6,112 人にも上り、子どもたちをはじめとする市民の夢を育み、スポーツ振興を図るとともに、経済の活性化や地域振興に寄与しました。



野球教室



ふれあい講演会

■ 「バドミントン クイーンズサーキット 2018 三次大会」の開催支援（地域振興部）

広島県立みよし公園で 4 日間にわたり「バドミントンクイーンズサーキット 2018 三次大会」が開催されるにあたり、支援を行いました。

全国各地から集まった約 120 人の選手や監督に対し三次の観光を PR し、バドミントンクリニックでは、市内小中学生 65 人が、広島ガスバドミントン部をはじめとする大会出場選手やコーチから直接バドミントンの指導を受けました。



バドミントンクリニック

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致	17,234		17,234	陸上選手団強化合宿 22日間 29人
聖火リレーコース誘致	486		486	機運醸成活動2回
JTサンダース交流事業バレーボール教室	93		93	参加者 112人
君田夢のバレーボール教室	200		200	参加者 200人
三次市野球教室 in きみた	280		280	参加者 約150人
三次地区女子サッカープロジェクト	523		523	参加者 約500人
広島ドラゴンフライズによるバスケットボールクリニック	100		100	参加者 52人
三次市民アンジュヴィオレ広島応援隊	621		621	観客数 736人
三次市民サンフレッチェ広島応援隊バスツアー	604		604	参加者 111人
三次市民JTサンダース応援隊バスツアー	477		477	参加者 72人
宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール	1,747		1,747	参加者 6,112人
バドミントン クイーンズ・サーキット 2018 三次大会	1,450		1,450	バドミントンクリニック 参加者 65人
計	23,815		23,815	

ウ 三次の文化・芸術の発展継承と創造

施策の概要

文化の創造と発信の拠点である三次市民ホールきりりにおいて、市内の学校や文化団体の発表会をはじめ、著名なアーティストによる最高級の舞台芸術に至るまで、様々なジャンルの公演を行いました。子ども文化芸術ふれあい事業では、子どもたちが本物の芸術を鑑賞できる機会を提供しました。

また、奥田元宋・小由女美術館を核とし、はらみちを美術館、美術館あーとあい・きさ及び三良坂平和美術館の4館で美術館事業を展開しました。インバウンド需要が高まる中、国内外からの来館者の誘致に積極的に取り組み、他施設と連携した広報活動を展開しました。

三次の子どもたちの健やかで心豊かな成長を願う真田一幸さんの寄附を財源として、創設した「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」では、子どもを対象としたスポーツ・文化団体に対する補助金の交付や、スポーツや文化を通して子どもたちの活動を支援するために用具の購入を行いました。

施策の成果

三次市民ホールにおける自主事業は、市民の意見を反映させるため、市民代表者、指定管理者、専門的ノウハウを有する者及び行政関係者の4者による「三次市民ホール事業運営委員会」が行っています。事業のジャンルや演目などは、専門的ノウハウを有する市民ホール企画支援業務受託者からの企画提案や、同者からのアドバイスを受けて決定しました。また、市民ホールのボランティアサポーター「NPO 法人きりり倶楽部」に、自主事業などの運営支援を受けました。子ども文化芸術ふれあい事業では、市民ホールで開催した劇団四季ミュージカルへの小学生の招待公演やみよし伝統文化・芸能フェスティバルなどを行いました。

奥田元宋・小由女美術館では、常設展に加え、年間7回の企画展を開催し、「木梨憲武展 Timing 一瞬間の光りー」には、57,220人の入館がありました。夏休みには子ども向け企画展の開催を、広島県立歴史民俗資料館及び三次商工会議所と連携して行いました。

企画展の関連事業として、大人向け・子ども向けのワークショップやイベントを行い、学校連携・地域連携を推進しました。市民が育てる美術館として、サポートメンバーの募集やボランティアの育成を引き続き行いました。

文化施設において市民に質の高い事業を継続的に提供することにより、市民が芸術文化への関心を深め、サポートボランティアとして積極的に活動を行うことができました。

事務事業の実施状況

■ 美術館の運営とネットワーク事業（教育委員会）

美術館の運営は、4館とも指定管理者制度を導入し、効率的な管理・運営を行いました。各館の個性を活かした常設展や魅力的な企画展、ロビーコンサートなどのイベントが行われました。

美術館の入館者は、奥田元宋・小由女美術館が98,579人、はらみちを美術館は6,532人、美術館あーとあい・きさは4,735人、三良坂平和美術館は5,612人でした。

■ 魅力あるみよしスポーツ・文化振興事業の展開（教育委員会）

スポーツ・文化みよし夢基金の運用益を財源の核として、スポーツ・文化の新たな事業を展開するため、次の事業に対しスポーツ・文化振興事業補助金について審議しました。

なお、事業の採択については、スポーツ・文化振興事業検討委員会（委員5人）において、交付の適否について審議しました。

＜スポーツ・文化振興事業＞

(単位：千円)

事業名	主催者	日程・会場	事業内容	事業費	内補助金額
歌謡フェスティバル in みよし歌の祭典	歌謡フェスティバル in みよし歌の祭典実行委員会	平成30年7月1日(日) 三次市民ホールきりり	カラオケ教室及びカラオケ愛好者による発表特別ゲストコーナー	3,214	0
計	1件			3,214	0

■ 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業（教育委員会）

子どもを対象としたスポーツ・文化の振興及び育成を図るため、78団体に真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金を交付しました。

また、子ども神楽団などの子ども伝統文化団体、スポーツクラブにスポーツ・文化活動で使用される用具を購入しました。

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金＞

(単位：千円)

団体種別	補助対象活動	件数(件)	補助金額
スポーツ系	団体運営	63	5,549
	大会等開催	8	662
文化系	団体運営	6	527
	大会等開催	1	100
計		78	6,838

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業用具整備＞

(単位：千円)

用具種別	品名等	件数(件)	購入金額
文化系	神楽備品(陣羽織, 本笛等) 吹奏楽備品(クラリネット, フルート, トランペット等)	10	2,599
計		10	2,599

■ 三次市民ホール自主事業支援事業（教育委員会）

「夏井いつき句会ライブ」, 「二階堂和美with Gentle Forest Jazz Band -Live in MIYOSHI-」をはじめ、来場者が夏季に比べて少ない冬季には「第2回三次市神楽共演大会」「第2回三次名人会(春風亭昇太ほか)」「芸人と兵隊(柴田理恵ほか)」など、多様なジャンルの舞台公演を開催し、市内外からの大勢の観客を集めました。また、「国際青少年音楽フェスティバル in 三次」の共催や、子どもたちが授業のなかでプロの音楽家の演奏を聴く「アウトリーチ事業」などを実施し、次世代を担う子どもたちが良質の文化芸術に触れ、豊かな創造力や感性を育むことを目的とする事業に取り組みました。さらに、「みよし KIRIRI 児童合唱団」の活動支援、「人形劇団きりり」の活動支援など、市民参加・育成型の事業も行いました。入館者数は81,716人(うち大ホールは34,249人)でした。また、「きりり倶楽部」主催の「ティーブレイクコンサート(計4回)」, 「クラシック楽楽ゼミナール(全3回)」のほか、初の試みとして「きりり de 夏まつり」を行い、地域の子どもたちを中心に多くの参加がありました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」



夏井いつき句会ライブ



二階堂和美 with Gentle Forest Jazz Band
-Live in MIYOSHI-

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市民ホール 自主事業支援事 業	21,539		21,539	<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓集団「倭-YAMATO JAPAN TOUR 2018 IN 三次 282人 ・国際青少年音楽フェスティバル in 三次 478人 ・人形のまちみよしシリーズ第7弾 人形劇団ココン「繭の夢」 56人 ・人形のまちみよしシリーズ第8弾 人形劇団ココン「カボとピノ」 82人 ・キエフ・クラシック・バレエ公演 462人 ・夏井いつき句会ライブ 786人 ・二階堂和美 with Gentle Forest Jazz Band -Live in MIYOSHI- 640人 ・みよし KIRIRI 児童合唱団育成事業 (第3回定期演奏会) 202人 ・人形のまちみよしシリーズ第9弾 人形劇団ひとみ座「弥次さん喜多さんトンちんカン珍道中」 138人 ・第2回三次市神楽共演大会 627人 ・第3回陸上自衛隊第13音楽隊コンサート 791人 ・芸人と兵隊 478人 ・第2回三次名人会 822人 ・ふるさと歌謡ショー 377人 ・市民ホール運営サポーター「きりり倶楽部」育成事業(ティープレイクコンサート) 3回 280人 ・クラシック楽楽ゼミナール 3回 延184人 ・きりり de 夏まつり 約500人
計	21,539		21,539	

■ 子ども文化芸術ふれあい事業（教育委員会）

平成 28 年度に「スポーツ・文化みよし夢基金」を財源に本事業を創設し、「小・中学生芸術鑑賞事業」として、劇団四季こころの劇場 ファミリーミュージカル 「魔法を捨てたマジヨリン」、「三次きらきらコンサート（三次市吹奏楽演奏会）」、「第 12 回みよし伝統文化・芸能フェスティバル」などを開催し、市内の小・中学生を中心に芸術に親しむ機会を提供しました。

また、平成29年度の三次子ども市議会で提案のあった「三次にも映画館をつくってほしい」という声に応じて子ども映画上映会を開催しました。「チア☆ダン」、「リメンバー・ミー」、「名探偵コナン」の最新作を各2回上映しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子ども文化芸術 ふれあい事業	6,388	その他 91	6,297	○小・中学生芸術鑑賞事業 1,690 人 ・劇団四季こころ「魔法を捨てたマジヨリン」 915 人 ・市内美術館等の見学鑑賞 775 人 ○三次きらきらコンサート （三次市吹奏楽演奏会） 約 500 人 ○第 12 回みよし伝統文化・芸能フェスティバル 約 800 人 ○子ども映画上映会 ・「チア☆ダン」 164 人 ・「リメンバー・ミー」 356 人 ・「名探偵コナン ゼロの執行人」 671 人
計	6,388	91	6,297	

エ 歴史・伝統・文化の継承と発展

施策の概要

文化財は、地域の歴史や文化などを正しく理解し、これからのまちづくりを考えるための基礎となる貴重なものです。その文化財を守り、伝えることで、地域に誇りをもって生活できるようになることをめざし、事業に取り組みました。

施策の成果

指定文化財の保存のため、史跡寺町廃寺跡整備事業として第5次発掘調査を行いました。また、文化財について広く周知するために小冊子を作成し、市内の小学校を中心に配布しました。

辻村寿三郎人形館展示支援事業では、年間2回の企画展及び全国創作人形公募展を開催し、県内外から多くの来館があり、本市ゆかりの作家の芸術を発信しました。

地域の歴史や文化に触れる機会の提供、知的好奇心をくすぐるような観光資源・観光地としての活用に向け取組を進めました。

事務事業の実施状況

■ 文化財調査事業（教育委員会）

道路の整備や土地の造成など開発事業の際には、文化財の取扱いについての協議や発掘調査などを行い、埋蔵文化財の保存や記録を行いました。また、開発工事等に係る試掘・測量調査を2件行いました。

■ 文化財保護事業（教育委員会）

文化財所在地の草刈りなど、環境を整備することで、文化財を後世に残し、知的観光資源としての活用を図りました。より良い方法で文化財を残していくために、地域の協力を得ながら、国や県の機関と情報交換を行い、検討しました。

また、文化財保護委員を中心に、市内の指定文化財の現状確認や調査を行いました。



第2回発掘調査検討委員会

■ 文化財副読本の作成事業（教育委員会）

文化財に関する学習啓発のため、副読本として利用できる小冊子「三次市の文化財」を作成しました。シリーズ4冊目として、広島県史跡頼杏坪役宅や製鉄関係遺跡など指定を受けている史跡についてわかりやすくまとめ、市内小中学校に配布しました。

■ 博物館・資料館の活用事業（教育委員会）

文化財などを展示・収蔵するために、三次市歴史民俗資料館などの施設の改装や修繕を行いました。また、資料として「三次町鳥瞰図（みよしちょうちょうかんず）」の複製を作成しました。

■ 三次まちなかギャラリー事業（教育委員会）

三次本通商店街に、来訪者が三次人形など三次地区の歴史・文化に触れる、町歩きのみかけとして、「まちなかギャラリー」を整備しており、これまで整備してきた三次地域交流館や展示棚2ヶ所に加え、平成30年度は2ヶ所を新たに設置し、三次人形や雛人形などを展示しました。

■ 史跡寺町廃寺跡整備事業（教育委員会）

文化庁や広島県教育委員会文化財課との協議を行いながら、10月から約2ヶ月間、寺町廃寺跡第5次発掘調査を実施しました。発掘調査では、金堂と講堂、回廊の調査を行い、講堂及び金堂の基壇を確認するなど、史跡の理解を深めるために必要となる情報を得ることができました。

また、発掘調査現地見学会を開催するとともに、地元への見学会や小学校の授業での訪問を受けるなど、多くの方に史跡寺町廃寺跡を周知する契機となりました。

■ 辻村寿三郎人形展示支援事業（教育委員会）

辻村寿三郎人形館の運営をする一般社団法人 寿三郎みよしに対して補助金を交付し、企画展として「天草四郎」「後期企画展（スサノオ）」が開催されました。

■ 全国創作人形公募展支援事業（教育委員会）

平成30年9月29日～11月4日の期間、辻村寿三郎人形館「全国創作人形公募展」を開催しました。日本全国から作品の応募があり、113点の作品を展示し、多くの方に創作人形をご覧いただきました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
まちなかギャラリー事業	826	国県支出金 412	414	三次地域交流館・既設展示棚2ヶ所での展示 新規設置2ヶ所
史跡寺町廃寺跡整備事業	8,430	国県支出金 4,189	4,241	第5次発掘調査の実施、関係機関協議など 第5次発掘調査現地見学会 60人
辻村寿三郎人形展示支援事業	8,000		8,000	天草四郎 3,899人 後期企画展（スサノオ） 2,000人
全国創作人形公募展支援事業	628		628	期間中入館者 1,081人
計	17,884	4,601	13,283	

オ 学ぶ気持ちを応援する生涯学習の推進

施策の概要

受講生自身が自己実現できる講座の開催やまちづくり・地域づくりに必要な人材の発掘と育成，さらには成果を地域に還元できるよう，様々な学習機会を設けました。また，子どもたちに三次の魅力を感じてもらうため，平成29年度に続いて子どもチャレンジ講座を開催しました。図書館活動としては，ころぶっくる号（移動図書館）の運行や，ボランティアによる「お話し会」の開催など，気軽に立ち寄れる情報拠点，読書施設，知的財産の保存施設としての図書館をめざし，利用者の利便性の向上に努めました。

施策の成果

市民が三次の再発見やスキルアップを図り，また，自分らしく豊かな生活を送るための術を生涯学習講座で学び合いました。平成30年度も引き続きフィールドワークを通して，本市の歴史を身近で感じてもらえる講座を行いました。

また，図書館では適正な蔵書管理とレファレンスサービス（調べもの相談）の向上を図り，市民の文化生活に関する情報の受発信の場としての活用も拡大しています。また，ボランティアによるお話し会や，自主講座も積極的に開講し，本のメッセージカードコンクールも本に親しむことのできる事業として定着してきました。今後もより活用しやすい施設をめざして取り組んでいきます。

事務事業の実施状況

■ 民間活力を活用した講座の開講（教育委員会）

幅広い年齢層を対象に，市民ニーズに応えた様々な分野にわたる講座を開講しました。

■ 図書館活動（教育委員会）

蔵書については，各館の容量や市民ニーズを勘案し充実を図りました。また，利用促進のため，近隣市町との広域利用を行っています。ころぶっくる号の運行，全館での「お話し会」の定期開催支援や「おたのしみ教室」を開催しました。

また，保育所・小学校への定期配達による貸出や小中学校への職員派遣など，子どもの読書活動への支援を行いました。加えて，年間を通じて各館で企画した特集展示を行いました。読書通帳100冊達成表彰，受験応援しおりの配布や読書に関するクイズなどの親しみやすい取組を通して，気軽に立ち寄れる図書館をめざしています。

三次市重要文化財である「往来本」について学ぶ取組として，往来物研究家である小泉吉永氏を講師に迎え，インターネットを利用した遠隔講座「おとなの寺小屋一ネットで学ぶ往来本一」を開講しました。

<図書資料>

図書館名	蔵書数（冊・点）	
	平成29年度末	平成30年度末
三次市立図書館	157,624	156,943
三次市立君田図書館	15,014	15,323
三次市立布野図書館	14,095	14,536
三次市立作木図書館	19,417	19,564
三次市立吉舎図書館	17,386	17,327
三次市立三良坂図書館	18,382	18,312
三次市立三和図書館	34,921	34,765
三次市立甲奴図書館	29,290	29,083
合計	306,129	305,853

<図書館利用状況>

図書館名	個人登録数（人）		貸出冊数（冊・点）		開館日(日)	来館者数(人)
	平成29年度末	平成30年度末	平成29年度末	平成30年度末	平成30年度	平成30年度
三次市立図書館	32,517	30,786	220,672	219,874	319	142,185
三次市立君田図書館			20,152	18,122	312	5,520
三次市立布野図書館			21,174	22,638	312	5,115
三次市立作木図書館			16,407	15,763	312	4,840
三次市立吉舎図書館			23,586	22,678	312	8,880
三次市立三良坂図書館			35,801	31,505	312	9,122
三次市立三和図書館			22,725	20,695	312	6,410
三次市立甲奴図書館			19,057	18,986	312	3,470
合計	32,517	30,786	379,574	370,261	-	185,542

(単位：千円)

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
生涯学習事業	4,000		4,000	文化振興・生涯学習事業（業務委託） 輝くあなた 294人 三次歴史塾 101人 ジュニアチャレンジ講座 147人
図書館事業	99,547		99,547	自主事業参加者（延人数） 講演会など 1,073人 本のメッセージカードコンクール 1,449人 おはなし会 1,183人
計	103,547		103,547	

カ 国際交流の推進

施策の概要

海外の姉妹・友好都市などとの国際友好親善及び国際協力推進並びに国際的な人材の育成及び市内在住外国人への支援を図るため、一般財団法人三次国際交流協会の運営を支援するとともに、連携し各種事業を推進しました。

施策の成果

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、市内在住外国人支援を含めた国際交流事業全般について、取組を推進することができました。

また、中国四川省雅安市雨城区から公式訪問団を受け入れ、友好都市提携25周年記念式典を開催しました。その他の姉妹・友好都市とも訪問・受入などを行い交流の絆を深めました。

事務事業の実施状況

■ 【国際交流推進事業】一般財団法人三次国際交流協会（地域振興部）

在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進するため、市内及び近郊の外国人居住者を対象とした生活相談を、通年で週に1回開催しました。言葉や生活習慣の違いから生じる各種相談が年間46件ありました。

また、「受入事業・派遣事業の支援」として、各国際交流団体主催の国際交流事業に対して助成金を交付しました。友好都市からの訪問団を受け入れ、また友好都市を訪問し、ホームステイや学校間の交流を通じて、三次市内の子どもたちが文化、習慣などの違いを経験することで、国際感覚豊かな人材の育成を図りました。

スピーチ交流会では、市内の中学生・高校生26人が、決められたテーマをもとに英語でスピーチを行い、英語への関心と英語力の向上を図りました。



2018スピーチ交流会



アメリカス市訪問団



インド・ハイデラバード市中学生訪問団

■ 【国際交流推進事業】海外派遣，受入事業（地域振興部）

平成 29 年度に三次市・雅安市雨城区友好都市提携 25 周年を迎えたことを記念し，平成 30 年 11 月に雅安市雨城区公式訪問団 7 人の受け入れを行いました。

これからさらに続く友好関係を記念し，友好都市提携 25 周年記念式典・レセプションを開催のほか，相互の交流発展をめざして，介護，医療，農業，芸術文化等の分野での視察交流などを進め，友好の絆を深めることができました。

また，姉妹都市である大韓民国 慶尚南道 泗川市から，平成 30 年 4 月の海上ケーブルカー開通式に招待いただき，三次市長ほか 5 名が泗川市を訪問し，友好交流を深めることができました。



友好都市提携 25 周年記念事業 中国四川省雅安市雨城区公式訪問団

主催団体	事業名	事業概要
NPO法人こうぬシミー・カーターシビックセンター国際交流協会	第 27 次アメリカス市訪問団派遣事業 (平成 30 年 8 月 17 日～24 日)	派遣：34 人（うち子ども 27 人） 表敬訪問，ホームステイ，学校間交流など
	アメリカス市訪問団受入事業 (平成 30 年 6 月 17 日～24 日)	受入：16 人（うち子ども 12 人） 表敬訪問，ホームステイ，学校間交流など
三次インド交流協会	インド・ハイデラバード市中学生訪問団受入事業 (平成 30 年 11 月 6 日～9 日)	受入：13 人（うち子ども 10 人） 表敬訪問，ホームステイ，学校間交流など
三次市日中友好協会	雅安市雨城区第九次子ども友好訪中団訪中事業 (平成 30 年 8 月 2 日～6 日)	派遣：13 人（うち子ども 10 人） 表敬訪問，ホームステイ，施設見学など

(単位：千円)

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
国際交流推進事業	8,287		8,287	外国人生活相談 46 件 海外派遣（子ども）37 人 スピーチ交流会参加者 26 人
計	8,287		8,287	

(4) 男女共同参画・平和・人権 ～みんなが協力してつくる、人にやさしく住みよいまち～

ア 男女がともに活躍できる環境の充実

施策の概要

三次市男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市民を対象とした啓発事業の実施と女性保護対策の充実などに取り組みました。あわせて、女性の活躍推進のため、子育て支援の充実や働く場の環境の整備に向けた取組を行いました。

施策の成果

ワーク・ライフ・バランスを推進するため、子育て世代とその家族をメインターゲットとした実践型のイベントを開催し、男性の家事参画の理解の浸透を図りました。

事務事業の実施状況

■ 男女共同参画推進事業（子育て・女性支援部）

男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画の理解の浸透と女性活躍の機運醸成を図りました。基本計画の内容や女性活躍推進の取組について、市広報をはじめ、市ホームページ、チラシなどにより、啓発に取り組みました。

男性の家事参画をテーマに、ネウボラみよしフェスタと同時開催した「Men's キッチン」には、60人の参加があり、男女共同参画や女性活躍の機運醸成が図られました。

夫婦や祖父母など、男女が協力して子育てに取り組むことを目的に、木のおもちゃによる「遊び」を推進する親子向けセミナーを開催し、参加者から好評を博しました。

また、男女共同参画審議会では、男女共同参画や女性の活躍推進に係る各種施策の実施状況を確認し、今後の取組を進める上での課題等について、議論いただきました。



男女共同参画啓発イベント
「Men'sキッチン」

(単位：千円)

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
男女共同参画推進事業	2,399		2,399	男女共同参画審議会 1回開催 男女共同参画啓発ワークショップ「Men'sキッチン」 参加者数 60人 親子向けセミナー 参加者数 20人
計	2,399		2,399	

イ 平和を願う思いの継承と市民意識の高揚

施策の概要

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、原爆と戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。そうした中で、戦争体験の継承と平和の尊さの次世代への継承、そして、恒久平和の願いを市民へ呼びかける事業を行いました。

三次市では、市民が身近なことから平和に関心を持ち、考えられるよう、広島東洋カープの協力を得て、平和の灯ろうコンテストにカープ球団選手からの平和メッセージをいただき、受賞作品とともに巡回展示を行いました。

施策の成果

戦争の悲惨さと、原爆の非人道性を語り継ぎ、恒久平和の願いを次世代に伝えるための取組は、平和の灯ろうコンテストへの応募や、平和の折り鶴の取組などの平和祈念事業に多くの市民が参加されるなど、確実に市民全体に広がっています。

また、核実験への抗議活動や、米軍の低空飛行訓練に対する中止要請は、世界恒久平和を願う市民メッセージとして発信しています。平和を願う思いが継承されるよう、啓発活動を通じて、市民一人ひとりの意識の高揚に引き続き取り組みます。

事務事業の実施状況

■ 平和推進事業（地域振興部）

広島平和記念公園に手向けられた折り鶴を活用する「折り鶴に託された思いを昇華させる取組」として、解体折り鶴を利用した「平和の灯ろうコンテスト」を行い、市内の老人福祉施設や小中学校の児童・生徒などから520点の応募がありました。広島東洋カープの選手からは、灯ろう用紙に平和のメッセージをいただき、受賞作品とともに市内巡回展示を行いました。

また、「日本非核自治体宣言協議会」（会長：長崎市長）に加盟しており、国内の自治体レベルで連携を取りながら、情報の収集や交換を行い、核兵器廃絶を訴えました。

市民から平和への思いを込めた折り鶴を募集したところ、36,886羽が寄せられ、広島平和記念公園の「原爆の子の像」に手向けました。

広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日には、市民に原爆犠牲者の追悼の黙とうを呼びかけ、庁舎をはじめとした公共施設において半旗の掲揚を行いました。

■ 平和祈念事業の開催（地域振興部、三良坂支所）

市民一人ひとりが平和について考え、次世代にその尊さを伝える契機の一つとして「平和のつどい MIYOSHI2018」を三良坂平和公園で開催しました。市内中学生による「三次市平和非核都市宣言」の朗読、「平和の灯ろうコンテスト」の表彰を行いました。平和の灯ろうコンテストに応募された灯ろう約1,000基が点灯される中で、市内コーラスグループやロックアコースティックユニットの「竹弦教」、「永江太鼓保存会」による平和コンサートを行い、参加者全員で平和への祈りを捧げるとともに、平和のメッセージを発信しました。



平和のつどい MIYOSHI 2018

■ 関連事業への取組（地域振興部）

市民から寄せられた米軍機低空飛行訓練目撃情報の件数は、延べ7日、9件でした。米軍岩国基地への空母艦載機移転の影響など、今後も注視していく必要があります。「米軍機による低空飛行の騒音被害に関する関係自治体の協議会」（廿日市市、北広島町、安芸太田町、三次市）において、引き続き情報共有を図りました。

北方領土返還運動については、北方領土の日にあわせて関係団体とともに市内2つのショッピングセンターで街頭啓発活動を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一 般 財 源	
平和祈念事業	1,508		1,508	平和のつどい MIYOSHI2018 （8月4日 / 三良坂平和公園） 参加者 約500人 平和の灯ろうコンテスト受賞作品 巡回展示（市内12会場）
計	1,508		1,508	

ウ 「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発

施策の概要

広島法務局三次支局，三次人権擁護委員協議会などと連携を図りながら，互いの違いを共に認め合い，支え合う，「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発を行い，人権尊重のまちづくりを進めました。

施策の成果

人権週間に合わせた啓発活動や，人権講演会を通じて，「心の扉」を開いていくことを学び，人間が支え合って生きていることを実感することができました。

小中学生による作文や書などの作品制作も学校単位で取組が行われ，展示や発表の場を提供することで，本人や保護者などに自覚が芽生えています。人権尊重の普及に向けて，今後も地道な啓発活動を行います。

事務事業の実施状況

■ 「ひと・かがやきフェスタ 2018」の開催（地域振興部）

11月11日，人権週間の前段として，三次人権擁護委員協議会と連携して，作文発表や講演会を中心とした「ひと・かがやきフェスタ 2018」を開催しました。あわせて，市内の小中学生が人権への思いを表現した「ひと・かがやきハート絵」の展示，全国中学校人権作文コンテスト広島県大会三次地区大会における入賞作品の朗読，人権擁護委員による啓発劇，人権書道展，発達障害パネル展など幅広い内容で行いました。

人権講演会では，「発達障害」をテーマに発達障害を抱えるピアニスト 野田あすかさんとお父様の野田福德さんをお招きし，発達障害と診断されるまでのご家族の苦悩や，障害と向き合い一生懸命前向きに生きようとされている現在の状況をお父様にご講演いただくとともに，あすかさんには，自分の障害と向き合ってくれたからこそ奏でられる「やさしいピアノ」を披露していただきました。参加者からは，「苦しみを理解できた」「心に響き感動した」「勇気づけられた」など多数ご意見をいただき，発達障害への理解を深めることができました。

会場を三次市民ホールに移し，4つの合同イベントとした「みよしいきいきふれあいフェスタ」内での開催であり，多くの市民の参加が得られ，「人権」を身近に感じていただき，効果的な啓発を行うことができました。

■ 人権の花運動（地域振興部）

広島法務局三次支局及び三次人権擁護委員協議会との共催で，作木小学校，川地小学校，酒河小学校，安田小学校の4校にヒヤシンス栽培セットを贈呈しました。栽培に取り組んでもらうことで，子どもの情操をより豊かにし，命の大切さや相手への思いやりという人権を尊ぶ気持ちを育むことを目的としています。栽培セットの贈呈式及び感謝状贈呈式において，児童に対して人権講話を行いました。

■ PTA人権教育講演会への補助（地域振興部）

小中学校が行うPTA人権教育講演会に対し補助を行い，児童生徒や保護者に対する人権啓発の取組を支援しました。

■ みよし日本語教室（地域振興部）

市内在住の外国人が日常生活を営む上で必要となる日本語能力を習得できるよう、「みよし日本語教室」を開催しました。ボランティアスタッフ 11 人（登録 25 人）の協力により、受講生は 27 人（平成 30 年度末現在）で、毎週火曜日と木曜日に開催しています。

また、持続的に日本語を学べる機会を確保するため、日本語支援ボランティアスタッフ養成講座を開催し、ボランティアスタッフの確保及びスキルアップを図りました。

引き続き、誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めます。

■ 各種相談事業の充実（市民部、地域振興部）

外国人が日常生活や地域、職場において各々の個性や能力を発揮しながら活躍できる社会づくりを推進するため、一般財団法人三次国際交流協会の協力を得ながら、外国人生活相談を毎週 1 回開設しました。また、弁護士による「市民無料法律相談」を毎月 2 回開設したほか、消費生活相談や人権相談など、市民が安心して相談できる体制の充実に努めました。

■ 女性保護対策事業（子育て・女性支援部）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）に基づく暴力被害女性の保護を図るため、相談員を配置して対応しました。婦人相談では、DV（ドメスティック・バイオレンス）などの深刻な問題のほか、広く女性が抱える諸問題の解決のため、相談員による面談、電話相談を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
「ひと・かがやき フェスタ 2018」 開催	721		721	開催日：11月11日 場 所：市民ホールきりり 参加者数：約 300 人
人権の花運動	109	国県支出金 71	38	【実施校】 市内小学校 4 校 ヒヤシンス栽培セット 320 個
PTA 人権教育講 演会への補助	98		98	【実施校】 市内小学校 5 校 市内中学校 2 校
みよし日本語教室	537		537	毎週火曜日・木曜日に開催 登録ボランティアスタッフ 25 人 ボランティア養成講座 受講者 21 人
人権啓発事業	829		829	社会を明るくする運動啓発用懸垂幕 三次人権擁護委員協議会負担金 三次地区保護司会補助金
各種相談事業	3,736	国県支出金 701	3,035	無料法律相談（月 2 回） 108 件 消費生活相談 187 件 外国人生活相談（週 1 回） 46 件 生活相談 87 件
【再掲】 女性保護対策事業	2,072	国県支出金 1,037	1,035	婦人相談件数 226 件（実人数 57 人） （うち DV 相談 114 件 実人数 23 人）
計	8,102	1,809	6,293	

